

2015 年度 事業計画

ノートルダム清心女子大学

◆研究・教育の重点目標並びに達成のための事業計画

○建学の精神および教育方針の明確化

本学の社会的評価は建学の精神に基づく教育の成果であるので、教職員に建学の精神が浸透するように、また同時に学生に建学の精神が深まるように努める。

○生涯学習拠点の充実と社会への貢献

清心フェリーチェの事業展開を充実させ、本学卒業生や地域の人々に広く教育貢献をはたすとともに、在学生の正課外学習の場としての充実もはかる。また、地域の諸機関と連携し、学内機構の整備をはかって、本学のもてる力を地域貢献のために活かす。

○学生確保の強化と広報活動の重点化

質の高い学生の獲得のため、積極的で有効な広報活動を行う。清心フェリーチェの開講講座と高大連携講座との有機的連携に努める。情報公開を積極的に行って、本学の教育理念と特色を社会に周知することに努める。

○学生のキャンパスライフの支援

学生の自学・自習の場としてのラーニングコモンスの整備を行う。また、2014年に採択された連携 GP「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」については、その成果の確認と評価を行い、積極的に事業継承をはかる。とくに、GPを活用して実施してきた、学校園と連携した保育職、教職に就く学生に対する教育支援を継続する。学生の就職活動期間の変更に対応し、就職活動支援を強化する。

新たに、2014年に文部科学省による私立大学等改革総合支援事業のタイプ1と2に採択された。タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」で導入した CALL教室のマルチメディア語学教育システムを遠隔活用することによって、学生たちの自主的な語学学習を支援する。具体的には、語学の授業と有機的に連携し、本学附属図書館、本学の ENGLISH LOUNGE、学生合同研究室、生涯学習センター(フェリーチェ)において、英語、フランス語、ドイツ語、中国語の学生たちの自主的な語学学習を支援する。

○自己点検・自己評価の進展

恒常的な自己点検・自己評価体制のもとに、本学の教育システムの不断の改善を行う。建学の精神、大学設置基準、社会のニーズ等の観点から、本学の教育システムをつねに点検評価し、実効性のあるものに改善していく内部質保証の体制を確立する。

○地域社会、産業界との連携の強化

文部科学省による私立大学等改革総合支援事業のタイプ2「特色を発揮し、地域の

発展を支える大学づくり」の事業では、本学の地域連携センターや産学連携センターを窓口にして、包括協定を締結している岡山市教育委員会、山陽新聞社、早島町、こくさいこどもフォーラム岡山（Interkids）と有機的な連携をしていく。そこでは、地域のニーズの調査や地域課題解決への取り組みを実施し、地域社会と産業界の活性化に貢献する。

◆生涯学習の推進プラン

○生涯学習センター（NDSU Continuing Education Center）による講座〔対象：学生、一般〕

- ①特別講演
- ②聖書講座（聖書の人間観）
- ③文化講座・・・生きがいの人間学、キリスト教文化への招待、文学への招待、歴史への招待
- ④実技講座・・・石膏デッサンを楽しむ、からだに優しいダンス
- ⑤親子であそぼうのびのび広場
- ⑥リカレント講座
- ⑦キャリア養成講座・・・語学講座、就活力養成講座

○高大連携講座（清心女子高等学校）

- ①「女性」（4～2月）
- ②「ハイレベル英語講座」（10～2月）

◆国際交流の促進

- ・夏季海外英語研修 ビクトリア大学（カナダ）
- ・海外留学協定大学（14大学）交流・・・協定大学への学生派遣、受け入れ

◆施設設備の整備計画

- ・テレジア館の改築、附属図書館へのラーニングコモンスの設置、書庫棟の増築、駐輪場の増設工事等
- ・ノートルダムホール本館の外壁（南側面）改修工事
- ・ノートルダムホール本館南側の配水管の改修工事
- ・大学聖堂（2階部分）の天井、壁の修繕工事
- ・食品栄養学科の教育施設設備（実習室・実験室）の充実整備工事
- ・ノートルダムホール東棟（北側、聖堂・鐘楼まわり）の耐震補強工事
- ・パソコン教室（第10PIT教室）、大学院生室のパソコン更新等
- ・ネットワーク機器及びサーバーの更新
- ・中庭（ノートルダムホール東棟の南側）の整備工事
- ・カリタスホールの変圧器（低濃度PCB入り2基）及び空調機熱源（チラー）の更新工事

- ・一宮グラウンドの整備工事及び体育館内のコートラインの整備

清心中学校・清心女子高等学校

◆研究・教育の重点目標並びに達成のための事業計画

○建学の精神の実施計画・・・伝統ある行事をより発展させる

- ・教員間への浸透を図るため、「祈りの集い」を継続
- ・奉仕の精神を行き渡らせるため、福祉施設との連携を大切にする
- ・海外研修受け入れ計画 ブレア校の受入（10 数名）

○グローバル人材の育成

- ・NELP の改善
- ・CLIL（内容言語統合型学習）の開発（高校）
- ・国際理解教育の深化のため、ノートルダム校(サンノゼ)訪問 生徒・教員 12 名
- ・SGH（スーパーグローバルハイスクール）への応募
- ・長期留学生の受け入れ(1 名)及び在校生に対する留学の勧め（派遣 5 名）

○進学実績向上、教員の指導力向上

- ・将来のセンター試験に代わる大学入試に対応する授業力を上げるための研究会への参加を促す研究授業の相互評価の実施
- ・アフター・シックスの実施 （希望者：放課後～午後 8 時）

○SSH 事業（第 2 期 5 年目）

事業題目：次代の科学技術を担う女性研究者としての基盤育成を目指した教育モデルの構築と成果普及・地域連携の強化による、科学技術分野における男女共同参画の推進

○生徒募集のための広報活動計画等

- ・オープンスクール、入試対策セミナー
- ・ND 杯スピーチコンテスト（小・中学生対象）
- ・同窓会との連携：英会話教室(English Hills)の継続
- ・小・中学校教員のための英語研究会の実施

○生徒指導の充実 基本的な生活習慣を身につけるよう指導、挨拶と掃除の徹底

◆施設設備の整備計画

- ・第一受水槽揚水ポンプ取替
- ・合併処理浄化槽チェッカープレート取替

ノートルダム清心中・高等学校

◆研究・教育の重点目標並びに達成のための事業計画

- カトリック学校として、建学の精神をすべての教育活動の基本に置き、全人教育を目指した教育活動の充実に努める（清心らしさの追求）
- 校訓「心を清くし愛の人であれ」という教えを、日々の生活の中で、あるいはボランティア活動などの体験を重ねることを通して、自己のあり方を考察できるようにし、社会の中で本当に必要とされる人材の育成を図る
- 生徒たちが学ぶ喜び・充実感を持ち、自己の資質向上に意欲を持ち、学校に通うことに誇りが持てるように育成する
- 学校の教育目標を共有し、互いに切磋琢磨しながら自己の資質向上に意欲的に取組む、拓かれた職員集団になれるように努める
- 社会情勢、教育情勢が大きく変遷している現状の中で、将来に対応できる本校教育の在り方を研究する（国際交流の検討、大学の入学試験への対応、カリキュラムの検討）
- 広報活動、ホームページの充実
- 新講堂等建設計画の具体的推進
 - ▶カトリック学校としての使命を教職員全員が自覚できるような研修活動（①将来計画委員会の中に講堂建設委員会、学力向上委員会を設置②講演会、研修会、聖書研究会など）を行う
 - ▶入学してくる生徒の実態、気質、レベルが確実に変化している現状を教職員全員で理解し、生徒指導、教科指導などにおける問題点・課題などを十分検討し、解決に向けての具体的な取り組みができるようにしていく
 - ▶専門職としての高度な技術の習得に努める
 - ・生徒指導、学級経営などの実践的な指導力育成
 - ・教科指導に関する専門的知識、指導力育成
 - ▶年間行事の検討、宗教行事の工夫、充実を図る
 - ▶学校を紹介できる機会、及び生徒たちの活動を見てもらえる機会を積極的に設ける

◆施設設備の整備計画

- ・ 講堂等建設工事関係
 - 講堂等建設工事に係わる敷地整備設計・開発許可申請業務委託
 - グランド埋め立てに係わる調査設計申請業務委託
 - 三谷踏切先道路拡幅に係わる周辺測量・用地測量業務委託
 - 敷地造成工事等（グランド内水路付け替え工事等、造成工事中間時払い）
- ・ Web サイト（ホームページ）リニューアル制作
- ・ 高校生用シューズロッカー取替工事
- ・ プールサイド塗装工事

ノートルダム清心女子大学附属小学校

◆研究・教育の重点目標並びに達成のための事業計画

○マナー向上と豊かな心の育成

- ▶良い習慣をつける・・・あいさつ、靴そろえ、よい言葉遣いの意識化
- ▶「質素で上品」であることの価値を具現化する
 - ・ものを大切に努力の視点を具体的に決めて、教職員も児童とともに取り組む
 - ・既存の施設設備・備品で十分に利用されていないものを点検し、活用の方向を探る

○児童の学力の向上と将来に続く人材と組織の育成

- ▶基礎学力・応用力の前提となる学習基盤作りに取り組む
 - ・「姿勢を整える」「必要な用具をそろえる」「話を最後まで聞く」「時間を守る」など学習の前提となる部分を徹底させることでレベルアップを図る
- ▶子供の潜在能力を見出して活性化させる施策を工夫する
 - ・発展・選択学習や発表・報告の場などを活用して、学力上位者や可能性を持つ児童の活躍を促す

○教職員の指導力の向上

- ▶子どもたちにとって、良い授業をするために「自己肯定感を持てる授業づくり」について継続研究する
 - ・「指導力」「教材」「施設」のそれぞれの質の向上を目指す
 - ・交流研修会を開催する機会を活用して研究の充実を図る
- ▶カトリック学校教職員としての自分を見直すなど内面に目を向ける機会を持つ
 - ・夏期休業中の「教育理念研修」や大学入試休業日の「宗教研修」などを活用する
- ▶附属校として本大学と連携し、学校全体の指導力向上を図る
 - ・可能な範囲で児童への授業に直接関わる(非常勤講師として授業をしてもらう)
 - ・学ぶ意欲のある教職員が主催する学習会の講師として招き、指導をいただく
 - ・特別支援の必要な児童について大学児童臨床研究所と連携して支援体制を充実させる

○発展につながる変化への対応

- ▶放課後活動をより充実させる
 - ・放課後預かり時間の延長や預かる場面の拡大を検討する
 - ・それぞれの活動の広報の仕方を工夫する
- ▶安全・防災教育を従来からある様々な活動と関連付けて取り組む
 - ・緊急時の行動訓練や防災マップ作りなどを行事や教科活動の中に具体的に組み入れて進める
- ▶広報活動に新たな視点で取り組む

- ・学校案内とホームページの役割を明確化して効果的に活用する
- ・参加者アンケートなどをもとにオープンスクールの内容の充実を図る
- ・学校の知名度・存在感を高める工夫（出品，出場など）を行う
- ・新入児面接や転入試験の制度について検討の機会を持つ

◆施設設備の整備計画

- ・耐用年数や交換・更新時期などで対応が必要なもの
- ・インターネット関連の通信機器の更新
- ・教科書の改訂による教師用指導書等の更新
- ・普通教室の ICT 環境の改善と学校放送システムの更新

ノートルダム清心女子大学附属幼稚園

◆研究・教育の重点目標並びに達成のための事業計画

○「心の教育」の推進・・・保育の中での事例を日々出し合い、話し合う

- ①愛されていると感じる心 ②友達を大切にする心 ③困難を乗り越える心

▶宗教教育の充実

〔園児〕宗教部による神様の話と各担任の連携、日々の宗教教育

〔保護者〕聖書を読む会、幼小合同による父親対象聖書研究会「ヨセフ会」

〔教職員〕園内研究「本園における宗教教育の在り方を考える」、理念、

宗教研修会・教職員黙想会（夏期）・年間を通じての聖書の通読

○モンテッソーリ教育の更なる充実

▶モンテッソーリ教育を基盤とした発展的展開

・・・基礎の上に成り立つ創造的な遊び

▶各教具の提示方法等の研究・研修、補助教材の設定

○子育て支援の強化

▶就園前保育 すずらんぐみ

- ・月1回親子で1時間半
- ・モンテッソーリ教育（大学児童学科の福原先生・学生補助）
- ・わらべ歌・絵本の読み聞かせ等（児童学科学生が中心に展開）

▶預かり保育

- ・3名の非常勤講師が時間を区切って保育にあたる
- ・家庭にいるような時が過ごせるような工夫・配慮

○園内・外研修

○保護者の参観日と研修

- ・参観日とその際の講演会（年4回）

・モンテッソーリ子どもの部屋参観日(各クラスを2度ずつに分け合計17回実施)他
○その他

▶夏期休業中における新しい取り組み

- ・モンテカミングデー(卒園児対象の子供の部屋でのホームカミングデー)
- ・園庭解放(在園児親子対象)

◆施設設備の整備計画

- ・創立50周年記念事業
- ・中庭の改修

収支予算書

◆ 概 要

収入の部のその他の収入では広島中・高が前年度は講堂等建築工事の遅延のため、特定資産の取崩しを減額したが、再度、建築工事経費に充てるため、減価償却引当特定資産と建築資金引当特定資産、合わせて5億1,000万円の取崩しを計上、倉敷高も減価償却引当特定資産9,000万円の取崩しを計上した。一方、学生生徒納付金収入や補助金収入など、ほとんどの科目で減額を見込んだ結果、当年度資金収入合計は前年度予算比5,300万円減の52億9,400万円となった。

支出の部では、各学校園の教育の充実、グローバル人材の育成、学生・生徒等の募集や広報の強化、教育環境の充実のための経費等を計上した。また、工事の着工が遅れている広島中・高の講堂等建設工事関係の大きい経費を再度組み込んだ。一方、大学で計画している附属図書館へのラーニングコモنزの設置や、部室のテレジア館の改築、駐輪場の増設、耐震補強工事については、補正予算で計上予定としているため、当年度の資金支出合計は前年度予算比約2,200万円減の53億900万円となった。その結果、当年度資金収支差額は1,560万円の支出超過となる予算となった。

繰越金を含んだ予算の規模は69億7,900万円となり、前年度予算比0.5%減（前年度当初予算比1.5%増）となっている。

なお、学校会計基準の改正により平成27年度予算から、従来の消費収支予算書は事業活動収支予算書に改正され、資金収支予算書も一部様式が変更となっている。

◆ 資金収支予算書

収入の部

学生生徒等納付金収入

入学金収入は大学が前年度の手続者が多かったこともあり107名減の683名で見込み、学園全体で216名減の1,400名分で計上した。また、小学校が国際コースの授業料等、幼稚園が入園料等の値上げを予定しているが、入学者数の減少などにより全体では79,211千円減収を見込んでいる。

手数料収入

28年度入学志願者数を多少少なく見込み、証明手数料、試験料、大学入試センター試験実施手数料と合わせて81,428千円を計上した。

寄付金収入

特別寄付金は前年度に大学教授の奨学寄付金の受入、及び名誉教授からの寄付があったことや、広島中・高の講堂等建設事業寄付金を前年度より少なく見込み30,552千円を計上した。一般寄付金は幼稚園母の会からの創立50周年に対する寄付金を含む3,393千円を計上した。

補助金収入

国庫補助金収入

大学の経常費補助金のみで、前年度交付のあった産業界のニーズ GP 補助金及び教育研究活性化設備整備補助金分を減額した 138,383 千円を計上している。

地方公共団体補助金収入 689,576 千円

倉敷高 148,111 千円、倉敷中 85,261 千円、広島高 191,018 千円、
広島中 141,600 千円、附属小 77,141 千円、附属幼 46,272 千円、大学 173 千円

付随事業・収益事業収入

補助活動事業収入は大学を除いた、各学校園の用品販売やスクールバス、寄宿舎や幼稚園の預かり保育等の収支を相殺し 27,600 千円を計上した。他に大学の児童臨床研究所の相談料収入である付随事業収入、公開講座事業収入(生涯学習センター一開講講座)と免許状更新講習料収入、倉敷高の高校就学支援金事務委託料の受託事業収入を計上した。

受取利息・配当金収入 13,125 千円

学校会計基準の改正により、奨学基金運用収入を第 3 号基本金引当特定資産運用収入に計上した。

雑収入

退職金財団交付金収入は前年度より 6 名減の退職予定者 9 名分の交付金予定額を計上した。研究関連収入は、大学の科研費間接経費受入額が未定のため計上していない。その他の雑収入の減額は前年度に大学の蒜山セミナーハウス雪害による損害保険料の受け入れがあったためである。

前受金収入

授業料前受金は大学が 493 名分を計上した。入学金前受金は学園全体で 1,393 名分を計上、施設設備資金前受金は大学 498 名、小学校 64 名、幼稚園 84 名分を計上している。

その他の収入

減価償却引当特定資産を倉敷高が 90,000 千円、広島中・高が 310,000 千円を取崩、建築資金引当特定資産を広島中・高が 200,300 千円の取崩を見込んでいる。

当年度資金収入合計 5,293,894 千円 (前年度比 1.0%減)

前年度繰越支払資金 1,685,110 千円

収入の部合計 6,979,004 千円 (前年度比 0.5%減)

支出の部

人件費支出

常勤、非常勤の教職員数の増減や退職・再雇用など教職員人件費、退職予定者 9 名の退職金を計上した。

教育研究経費支出（各学校園の教育部門の経費）

消耗備品費支出

大 学 第10PIT教室・大学院生のパソコン更新、ネットワーク機器及びサーバーの更新、食品栄養学科の教育施設設備の充実整備工事関係備品他

修繕費支出

大 学 NDホール本館の外壁（南面）改修工事、カリタスホールの変圧器及び空調機熱源更新工事、聖堂の天井・壁の修繕工事他

広島中高 プールサイド塗装工事他

小学校 昇降機、空調設備保守料他

幼稚園 中庭整備工事他

報酬・委託・手数料支出

大 学 第10PIT教室・大学院生のパソコン更新、ネットワーク機器及びサーバーの更新、食品栄養学科の教育施設設備充実整備工事関係費用他

各学校園 講師謝礼、清掃・警備委託、樹木管理委託、校医報酬、学事システム保守料他

管理経費支出（各学校園の管理部門の経費）

広告費支出

大 学 入試広報活動の強化 広島中高 ホームページリニューアル

報酬・委託・手数料支出

大 学 事務系サーバーの更新費用 広島中高 講堂等建設関係経費他

幼稚園 創立50周年記念事業関係費用他

施設関係支出

建物支出・構築物支出

大 学 カリタスホールの変圧器及び空調機熱源更新工事、中庭（NDホール東棟南側）の整備工事、一宮グラウンドの整備工事、ノートルダムホール排水工事

倉敷高 揚水ポンプ取替等

幼稚園 中庭整備工事

建設仮勘定支出 広島中高 講堂等建設工事（造成工事等）

設備関係支出

教育研究用機器備品支出・管理用機器備品支出

大 学 第10PIT教室・大学院生のパソコン更新、食品栄養学科の教育施設設備（実習室・実験室）の充実整備工事関係備品、ネットワーク機器及びサーバーの更新等

広島高 昇降口シューズボックス取替 小学校 パソコン・楽器購入

幼稚園 卒業記念品 法 人 パソコン・プリンター更新

資産運用支出

減価償却引当特定資産繰入支出	160,000 千円
	(大学 100,000 千円、 広島中 60,000 千円)
第3号基本金特定資産繰入支出	大学 10,000 千円
建築資金引当特定資産繰入支出	倉敷高 5,000 千円
当年度資金支出合計	5,309,513 千円 (前年度比 0.4%減)
翌年度繰越支払資金	1,669,491 千円
支出の部合計	6,979,004 千円 (前年度比 0.5%減)

◆事業活動収支予算書

教育活動収支

事業活動収入の部

寄付金は特別寄付金 15,842 千円と一般寄付金 3,393 千円、大学・倉敷高が図書等の現物寄付 751 千円を計上した。また、雑収入では退職給与引当金戻入額に広島高 15,283 千円と法人 453 千円を計上した。その結果、教育活動収入計は 4,390,925 千円となった。

事業活動支出の部

人件費では退職金に広島高 72,399 千円、退職給与引当金繰入額に大学 42,440 千円、広島中 7,168 千円の計 49,608 千円を計上した。また、教育研究経費の減価償却額 406,567 千円と管理経費の減価償却額 52,355 千円を計上した。その結果、教育活動支出計は 4,545,068 千円となった。

教育活動収支差額

教育活動事業での収支のバランスをみるものとして、教育活動収支差額は 154,143 千円支出超過となった。

教育活動外収支

事業活動収入の部

受取利息・配当金収入は、第3号基本金引当特定資産運用収入 649 千円とその他の受取利息・配当金 12,476 千円を計上した。

教育活動外収支差額

教育活動事業外収支の支出はないので、教育活動外収支差額は 13,125 千円の収入超過となった。

経常収支差額

教育活動収支と教育活動外収支を合わせた経常的な収支バランスは、141,018 千円の支出超過となった。

特別収支

事業活動収入の部

施設設備寄付金として、倉敷中高の7,310千円、広島中高が講堂等建設事業に7,400千円をそれぞれ計上した。

事業活動支出の部

大学のテレジア館改築に伴う現施設の除却で発生する建物処分差額11,972千円、及び図書処分差額に大学10,000千円、倉敷高1,300千円の合計11,300千円の資産処分差額を計上した。

臨時的な収支のバランスをみる特別収支差額は9,354千円の支出超過となった。

基本金組入前当年度収支差額

当年度の収支バランスの表示となるもの(従来 of 帰属収支差額)で、171,522千円の支出超過となった。

基本金組入額合計 660,891千円

大 学 92,614千円、 広島高 285,970千円、 広島中 278,240千円、
小学校 1,845千円、 幼稚園 2,222千円

当年度収支差額 前年度比329,505千円増の832,413千円の支出超過となった。

翌年度繰越収支差額

支出超過となった当年度収支差額に前年度繰越収支差額を加算した結果、1,060,285千円の支出超過となった。